

ジョイサポコラム No.24

整形外科女医の専門性

横浜市立大学附属市民総合医療センター 倉澤 美帆

2023年4月から2024年3月まで横須賀共済病院整形外科で1年間勤務をしておりました倉澤美帆と申します。整形外科として7年目の勤務が終了し今年度は横浜市立大学附属市民総合医療センターで勤務しております。

整形外科女性医師の割合は、同門では新入局員の約1割とまだまだ少数であり、患者さんから「整形外科の女医さんは珍しいわね。」と外来診療中に言われることは多く経験します。また、「話しやすくて良かった。」と言っただけのこともある一方で、やはり“頼りない”といった印象を受けられることはあるのだろうと考えます。

私が整形外科を目指したのは、中学生の時に左膝半月板損傷で手術を経験したことがきっかけでした。治療のため当時熱中していたバスケットが半年間でできなくなったことはとても辛い経験でしたが、主治医や担当PTなど関わってくれた医療スタッフへの憧れと膝関節（特に軟骨）に興味を持つようになり、いつしか整形外科医を目指すようになりました。

実際に整形外科での仕事は楽しい一方で、骨折や脱臼の整復や手術操作ではある程度力が必要になる場面もあります。術中ドリルで固い骨を削る際にはドリルの動力に負けてしまい、手首を捻挫する経験もありました。

また、整形外科は体力と筋肉を兼ね備えたガツガツした体育会系の男性の同僚が多いのも事実で、内向的な私は自己アピールができず、勢いのある同僚がどんどん経験を積む

チャンス掴むのを見て焦ることも多くありました。そんな中、自分の整形外科での生き残り方を考えるようになりました。

まず一般的な外傷や変性疾患を治すことを疎かにしないことを目標にしました。横須賀共済病院は三次救急医療機関であり、中等症から重症の外傷患者さんが多く搬送され、外来では近隣の整形外科医院からも多くの患者さんを紹介いただきます。治療は一筋縄ではないことも多くありますが、多くの診療科（内科、外科系、救急科）の親身なサポートをいただきながら多くの手術治療及び保存的治療の経験を積むことができました。

それだけでは特徴がないため、次に専門性を獲得することを目指しました。整形外科の様々な分野の中でも需要が多い分野に進みたいと思いました。日々の診療では、腰痛や腰部脊柱管狭窄症によるADL低下や強い痛みを抱えている患者さんが非常に多く、整形外科の中でも脊椎分野は必要とされることが多いと感じました。何よりも麻痺や強い下肢痛が手術によって改善し、患者さんから感謝のお言葉をいただいた経験があり、脊椎外科を目指すようになりました。脊椎外科も奥が深く、専門性を獲得するためのこれからの修行は大変であると思います。

今年度は横須賀市を離れますが、修練を積み“頼りになる”女性整形外科医として横須賀市の医療に貢献できるようになることを今後の目標の一つとして精進していきたいと思っています。